

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立大山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 進路主任＝事務局長
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、生活指導主任、進路主任、3学年主任（計6名）
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
前都立学校校長1名、板橋消防署長1名、近隣中学校長2名、
近隣保育園園長1名、全PTA会長1名、地域代表2名、（計8名）

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 第1回 令和5年6月27日（火）
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の委嘱、令和4年度学校経営報告、令和5年度学校経営計画
- (2) 第2回 令和5年11月28日（火）
学校運営報告（教務部、生徒部、進路部、保健部）、学校評価アンケートの項目、実施方法
- (3) 第3回 令和6年2月16日（金）
学校評価アンケートの分析・評価、次年度の課題、学校運営連絡協議会実施報告の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 評価観点 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期及び対象
 - ① 12月上旬～1月上旬に実施
 - ② 回収率 生徒 74% 保護者 24% 教職員 94% 地域向け 20.3%
- (3) 評価項目 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、ライフ・ワークバランスをもって評価をした。
生徒（12項目）、保護者（11項目）、教員（13項目）、地域（5項目）
- (4) 評価結果の概要
 - ① 生徒の約81%が、学校行事は充実していると感じている。
 - ② 生徒の約80%が、生徒一人一人に対応した丁寧な指導を行っていると感じている。
 - ③ 生徒の約73%が、大山高校全日制に入学してよかったと感じている。
 - ④ 保護者の約93%が、学校行事は充実していると高い評価をした。
 - ⑤ 保護者の約87%が、生徒一人一人に対応した丁寧な指導を行っていると感じている。
 - ⑥ 保護者の約89%が生徒を大山高校に入学させて良かったと感じている。
 - ⑦ 地域アンケートにおいて、生徒に地域行事への参加を望む声が多数あった。
 - ⑧ 「ライフ・ワークバランス」に対しての東京都の取り組みに対して、約31%の教員が肯定的であった。68%は否定的であった。改善を続ける。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ① 一人一台端末を1・2年生全員が所有するため、ICTを利用した授業にさらに取り組めるように研修等を行っていく。
- ② 地域に開かれた学校づくりをしていくためにホームページ等を利用して、学校の情報を発信していく。
- ③ 職務内容の効率化を組織的に図る。教員が体調を崩さないような働き方改革による環境づくりをしていく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

昨年度までと違い、感染症等を懸念せず、3回とも対面で実施した。外部委員の中学校長が同じ型であり、より活発な議論や意見交換をすることができた。また学校評価アンケートを実施することができ、生徒・保護者・教員・地域住民の認識の違いを知ることができた。担当の業務負担軽減のためにフォームスを活用したが、回収率が低くなってしまった。地域住民から地域行事への参加を強く希望されている。また、参加した行事では高い評価をいただいた。短い時間内で効率の良い話し合いが行えるよ

うに工夫が必要である。また、記録のために IC レコーダーを使用した。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ① 年度当初の全校集会、PTA総会及び保護者会を活用して生徒・保護者に、教育方針を周知する。
- ② 一昨年度よりホームページが刷新され、地域・保護者等から積極的な情報公開を求められている。また大山が求めている生徒、大山にふさわしい生徒がどのような生徒なのかを十分に周知し、生徒募集に役立てる。保護者には学校について十分な情報が伝わっていない可能性があり、ホームページ、X、TEAMS等に合わせて校務クラウドを活用し、連絡事項の周知を計る。
- ③ 様々な問題を抱えた生徒達に対して、教科指導、生活指導はもちろん、SC や YSW、子ども家庭支援センター、児童相談所等との地域施設との連携を十分に行い、生徒の健全な育成、将来に向けての進路教育の充実を図る。

（2）学習指導

新教育課程、一人1台端末の導入、ICTの活用等の教育環境の変化に柔軟に対応するとともに、主体的、対話的で深い学びを実現する。また、地域住民アンケートではコミュニケーション教育の重要性が指摘されている。これに鑑み、生徒が自分の考えを表明できるような指導を各教科で実践する。

（3）特別活動

学校行事、部活動及び生徒会活動の参加率を向上させるための工夫及び進級規定の更なる整備を行う。

（4）生活指導

- ① 生徒の社会性やルール観は向上している。
生活指導の基本的な決まりを、機会ある毎に、生徒に周知徹底させる。自転車の安全マナーについて繰り返しアナウンスや指導を行っていく。
- ② 授業態度や生活規律の維持のために、校門指導、個別指導等を今後も継続する。定時制課程の教育活動への理解について発信し、お互いの良さを理解するよう求めていく。

（5）進路指導

- ① 3年間を見据えたキャリア教育の全体計画を周知し、進路ガイダンスを組織的に推進する。
- ② 生徒・保護者との三者面談等を行い、個に応じた進路指導を行う。進路決定率をさらに改善させる。
- ③ 進学指導への取り組みについて、今年度の改善点を踏まえ、進路指導の実施内容を更に充実させる。

（6）健康・安全その他

- ① 保健全体計画の組織的な推進、地域の医療機関との連携により、適切に健康・安全指導を実施する。
- ② 防災教育を推進し、生徒に「自助」と「共助」の精神を育む。各学年において、災害発生時に徒歩で帰宅する経路を確認させている。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員数 8名

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の数 8名
協議委員の意見は肯定的なものが多い。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 企画調整会議 0名 職員会議 0名

8 その他

- （1）保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- （2）評価精度の更なる向上のため、学校行事や授業公開など学校公開の機会を増やしていく。
- （3）ライフ・ワークバランスを踏まえ、適切な組織運営を行う必要がある。